

- スタッフ名：大野幸子（特任准教授）、渡邊林治（特任講師、非常勤）
渡邊秀明（特任助教）、大野富美（特任助教）
- 講座の設置期間：2020年4月～2030年3月（2025年4月～2期目）
- 寄附者名：株式会社伊藤園
- 協力講座名：外科学専攻感覚・運動機能医学講座口腔顎顔面外科学

その他の研究成果（論文）

→各スタッフのResearch mapをご参照ください
2025年度の論文発表数：20報（全て査読付き国際誌）
大野幸子： <https://researchmap.jp/sachikoono-tky>
渡邊林治： <https://researchmap.jp/WatanabeRinji>
渡邊秀明： <https://researchmap.jp/hi-wa>
大野富美： <https://researchmap.jp/oonofumi>

演題名：人が生きる根幹である『食べる』に関する研究成果

演者名：大野富美、渡邊秀明、渡邊林治、大野幸子

12問で食事の質を測る質問票を開発

- ①果物をどのくらいの頻度で食べますか
- ②豆類…
- ③魚…
- ④ソーセージ・ハムなど…
- ⑤牛肉・豚肉…
- ⑥ナッツ…
- ⑦全粒穀物…
- ⑧野菜…
- ⑨乳製品…
- ⑩砂糖入りの飲料…
- ⑪汁物…
- ⑫家庭での味付けの濃さ…

数分で回答可能

過去一か月の食事の質をスコア化

0～30点

日本人のための食事の質スコア（10項目）



健診、保健指導、研究…
食事の調査に時間がかからない場面での
科学的な食事の質の調査が可能に
（現在妥当性検証中）

食事の質を含む質問票調査の実施

- S県U市での住民対象の健診での質問票調査
2025年度約200名が回答
2026年度は1万人以上に配布予定
- 勤労世代対象のオンライン質問票調査
2025年度約2.5万人が回答

将来的には…
健診結果、保険医療受診データなどと
質問票調査の結果を突合して
食事と健康状態との関連を明らかにする

12問の質問票の開発：Oono F, et al. Br J Nutrにマイナーリビジョン中
日本人のための食事の質スコアの開発：Oono F, et al. J Nutr, 2023;153(3):798-810.

【論文出版】体重減少が機能低下に及ぼす影響

データソース：18自治体の医療・介護保険データ

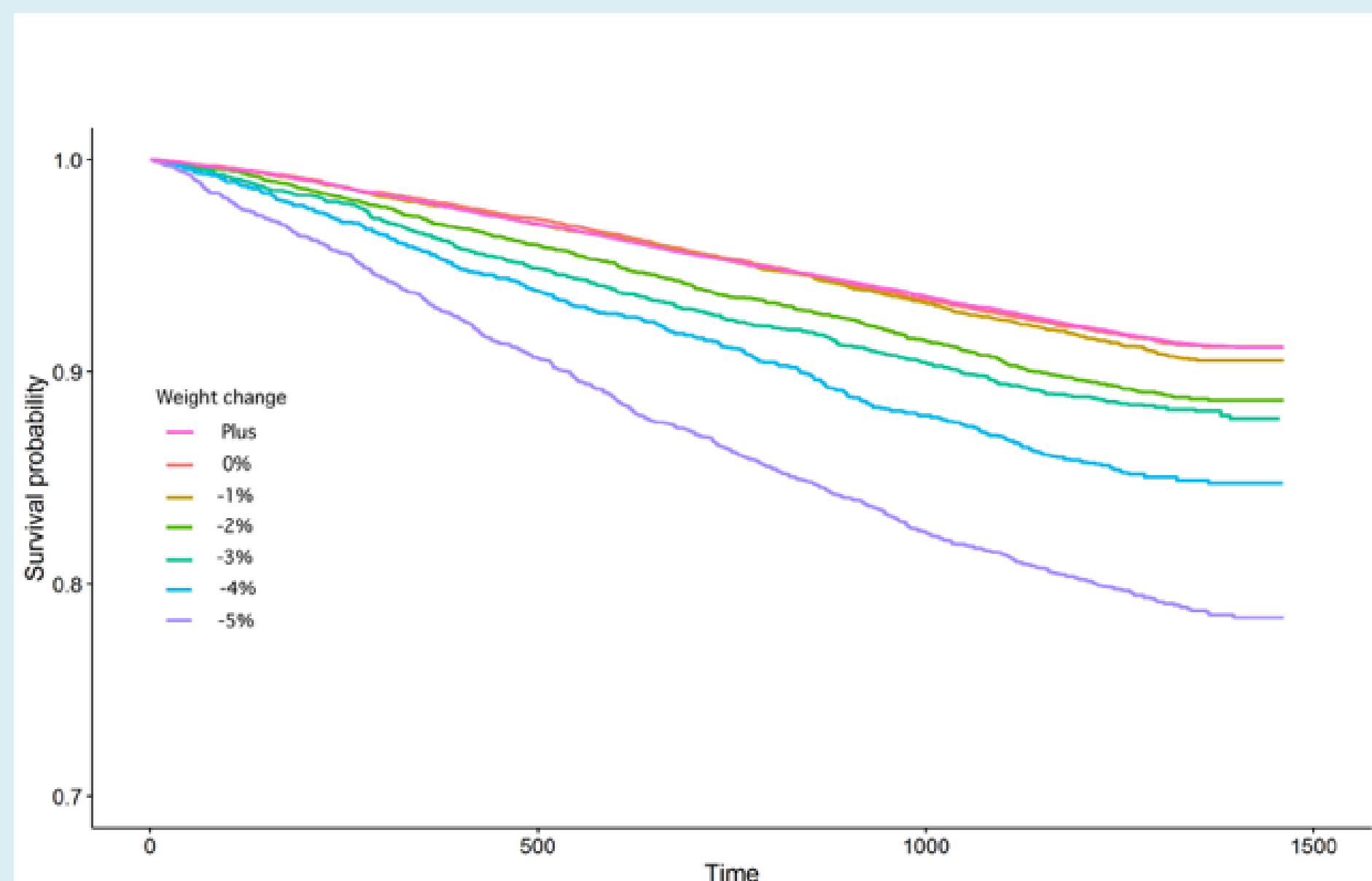
対象者：65歳以上かつ2014, 2015年の健診両方に参加

曝露：2014年から2015年の体重減少

アウトカム：4年間の機能低下（要介護度の悪化と死亡を含む複合アウトカム）

結果：1%以上の体重減少で機能低下リスクが高く用量反応的な関連

→ 体重変化のモニタリングは機能低下のリスクが高い高齢者を
特定する低コストで実装可能な方法



Oono S et al. "Weight loss and functional decline in older Japanese people: A cohort study using large-scale claims data." Archives of gerontology and geriatrics vol. 120 (2024): 105354.

【学会発表】たんぱく質摂取を媒介した口腔機能の要介護状態の変化および体重減少への影響

データソース：JAGESデータ

対象者：65歳以上の自立高齢者

曝露：2016年の歯数

アウトカム：

- ・ 2019年以降の要介護1以上または死亡の複合アウトカム
- ・ 2019-2022年の体重変化率

媒介因子：2019年のたんぱく質摂取量(密度法)

結果：

たんぱく質摂取量を介した歯数と…

- ・ 機能低下との関連の間接効果を認めなかった
- ・ 体重変化との関連の間接効果を認めた

たんぱく質摂取量と口腔の健康の両者に介入

→機能低下に先行して発生する体重減少の予防に有益である可能性

